

令和 8 年度 定期作況報告

〈令和 8 年 9 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

8 月下旬：平均気温、最高気温、および最低気温は平年並であった。
降水量は 30.5mm で平年の 45%、日照時間は 62.5 時間で同 120%だった。

9 月上旬：平年と比較して、平均気温は 2.0℃低く、最高気温は 2.5℃低く、最低気温は 1.6℃低かった。
降水量は 46.0mm で平年の 156%、日照時間は 53.5 時間で同 84%だった。

9 月中旬：平年と比較して、平均気温は 0.6℃低く、最高気温は平年並、最低気温は 1.1℃低かった。降水量は 0.0mm で平年の 0%、日照時間は 53.8 時間で同 91%だった。

以上、平均気温は 0.9℃低く、最高気温は 0.8℃低く、最低気温は 1.1℃低かった。降水量は 76.5mm で平年の 54%、日照時間は 169.8 時間で同 97%だった(表 1)。

表 1 気象表

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	22.4	22.6	▲ 0.2	19.5	21.5	▲ 2.0	18.6	19.2	▲ 0.6	20.2	21.1	▲ 0.9
最高気温(℃)	26.9	27.1	▲ 0.2	23.8	26.3	▲ 2.5	24.5	24.3	0.2	25.1	25.9	▲ 0.8
最低気温(℃)	18.1	18.6	▲ 0.5	15.4	17.0	▲ 1.6	13.5	14.6	▲ 1.1	15.7	16.8	▲ 1.1
降水量(mm)	30.5	67.1	▲ 36.6	46.0	29.4	16.6	0.0	44.2	▲ 44.2	76.5	140.7	▲ 64.2
日照時間(hr)	62.5	52.0	10.5	53.5	63.4	▲9.9	53.8	59.0	▲5.2	169.8	174.4	▲4.6

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前 10 か年の平均値である。
注 2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

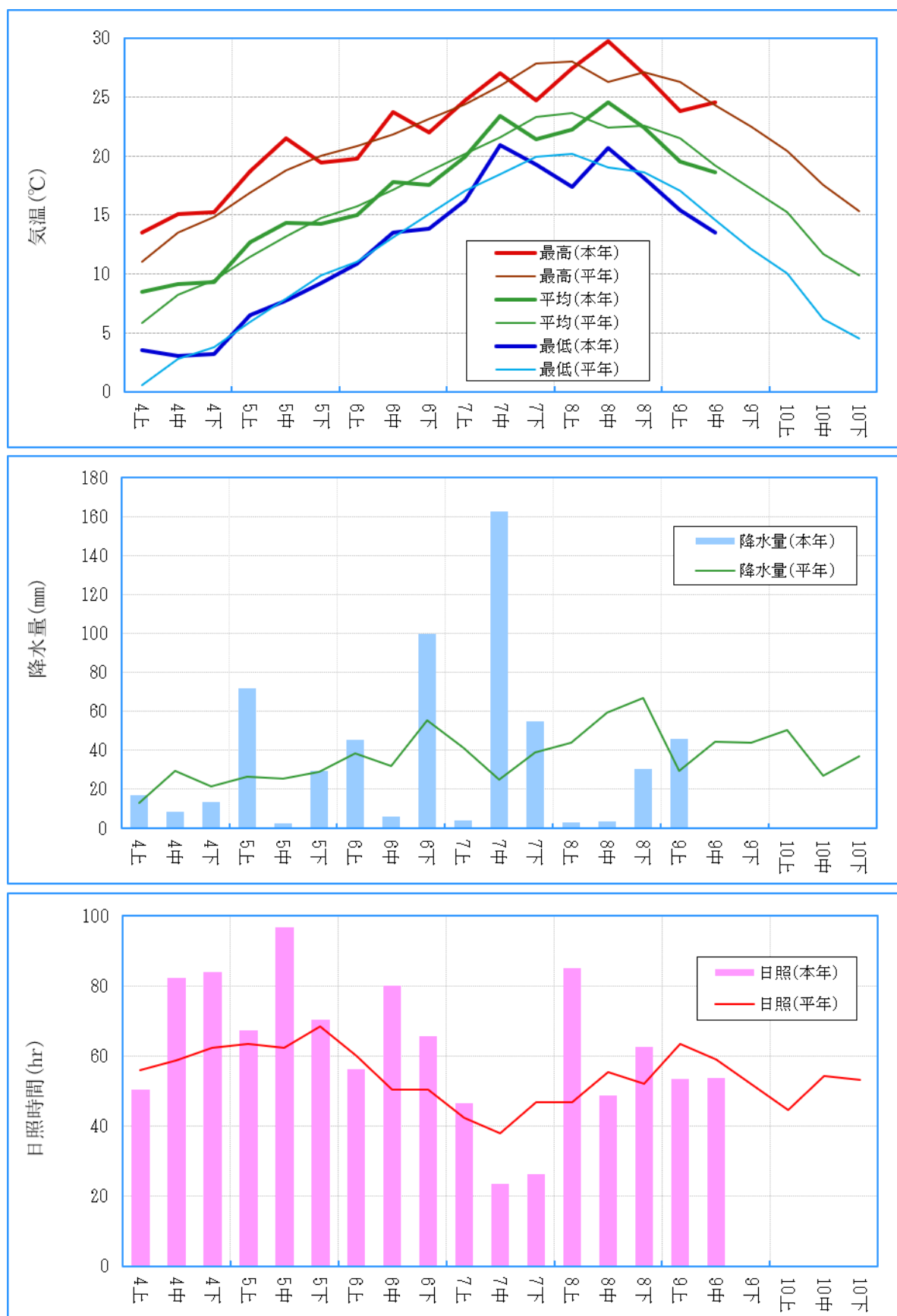


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和8年、北斗市)

2. 作況（水稲）

9月20日：やや良

事 由：8月下旬は平年並の気温で経過し、登熟日数は「ふっくりんこ」で平年より3日短く、「ななつぼし」で2日短かった。成熟期は「ふっくりんこ」で平年より5日、「ななつぼし」で4日早かった。倒伏やなびきは見られなかった。「ふっくりんこ」は、穂数は多かったが、7月中～下旬の寡照のため、一穂粒数は平年の82%とかなり少なく、稈実歩合は平年の103%とやや高かったことから、 m^2 当稈実粒数は平年の90%とかなり少なかった。登熟期間は概ね多照であったことから、登熟歩合は平年より14.2ポイント高く、 m^2 当登熟粒数は平年の100%と平年並であった。

「ななつぼし」は、穂数はやや多かったが、一穂粒数は平年の95%とやや少なく、稈実歩合は平年の102%であることから、 m^2 当稈実粒数は平年の100%と平年並であった。登熟歩合は平年よりの14.8ポイント高く、 m^2 当登熟粒数は平年の113%とかなり多かった（表2）。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

8月20日：平年並

事 由：7月下旬、8月上旬は低温で推移したが、8月中旬は高温に推移したため、登熟は進み、籾の黄熟化が進んだ。そのため本田生育調査と合わせて、稈長等の成熟期調査も行った。止葉葉数は平年並で、草丈は短かった。茎数は「ふっくりんこ」で平年の106%と多く、「ななつぼし」は平年の102%と平年並であった。稈長は両品種ともに平年より短かった。穂長は両品種ともに平年より短く、一穂粒数が少ないことが考えられた。穂数は「ふっくりんこ」は平年の106%と多く、「ななつぼし」は平年の103%とやや多かった（表2）。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

7月20日：平年並

事 由：6月下旬は低温であり生育は停滞したが、7月上旬は平年並の気温で、7月中旬はかなり高温であったため、生育は回復した。幼穂形成期および止葉期は、両品種ともに平年より1日早かった。出穂期は、両品種ともに平年より2日早かった。両品種ともに葉数は平年並みで、草丈も平年並みであった。茎数は「ふっくりんこ」は平年よりやや多く、「ななつぼし」は平年並みであった（表2）。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

6月20日：やや不良

事 由：5月下旬～6月上旬は低温で推移し、6月5日～10日の間は15℃以下の低温であったため、葉の黄化や生育の停滞が見られた。6月中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復したが、平年と比較して、草丈は2品種ともに低く、葉数は2品種ともに少なかった。茎数は「ふっくりんこ」では平年並であったが、「ななつぼし」は少なかった（表2）。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

5月20日：やや良

事 由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬は平年並の気温で多照、5月上旬は高温でやや多照、5月中旬は高温で多照であり、全体としてやや高温で多照であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、平年と比較して、草丈は2品種ともに長く、葉数は2品種ともに多く、茎数は2品種ともに多かった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値は「ふっくりんこ」は重く、「ななつぼし」は平年並であった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育

項目 品種名 /年次		ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)	6.29	6.30	▲ 1	6.25	6.26	▲ 1
	止葉期 (月日)	7.13	7.14	▲ 1	7.11	7.12	▲ 1
	出穂期 (月日)	7.20	7.22	▲ 2	7.18	7.20	▲ 2
	成熟期 (月日)	9.03	9.08	▲ 5	8.30	9.03	▲ 4
	穂揃日数 (日)	3	5	▲ 2	3	5	▲ 2
	登熟日数 (日)	45	48	▲ 3	43	45	▲ 2
	生育日数 (日)	133	139	▲ 6	129	133	▲ 4
移植時	草丈 (cm)	15.9	14.6	1.3	15.3	14.5	0.8
	葉数 (枚)	3.8	3.5	0.3	3.8	3.5	0.3
	茎数 (本/個体)	1.90	1.45	0.45	1.27	1.11	0.16
	地上部乾物重 (g/100本)	3.54	3.07	0.47	3.24	3.11	0.13
	地上部乾物重/草丈	0.22	0.20	0.02	0.21	0.21	0.00
本田生育	草丈 (cm)	6月20日 31.7	34.1	▲ 2.4	32.5	35.3	▲ 2.8
		7月20日 85.5	84.3	1.2	86.5	86.9	▲ 0.4
		8月20日 90.1	92.6	▲ 2.5	88.2	92.9	▲ 4.7
	葉数 (枚)	6月20日 7.3	7.8	▲ 0.5	7.2	7.9	▲ 0.7
		7月20日 10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
		8月20日 10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
	止葉葉数 (枚)	10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
	茎数 (本/㎡)	6月20日 547	535	12	432	464	▲ 32
		7月20日 770	739	31	635	645	▲ 10
		8月20日 732	689	43	635	620	15
成熟期	稈長 (cm)	74.6	77.6	▲ 3.0	72.3	75.4	▲ 3.1
	穂長 (cm)	16.2	16.8	▲ 0.6	15.6	17.1	▲ 1.5
	穂数 (本/㎡)	729	683	46	634	613	21
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	39.9	48.5	▲ 8.6	49.6	52.3	▲ 2.7
	㎡当粒数 (×1000)	29.0	33.2	▲ 4.2	31.4	32.2	▲ 0.8
	稈実歩合 (%)	97.0	94.2	2.8	97.5	95.7	1.8
	㎡当稈実粒数 (×1000)	28.2	31.3	▲ 3.1	30.7	30.8	▲ 0.1
	同上平年比	90	100	▲ 10	100	100	▲ 0
	登熟歩合 (%)	94.6	80.4	14.2	93.2	78.4	14.8
	㎡当登熟粒数 (×1000)	26.7	26.6	0.1	28.6	25.2	3.4
	粒摺歩合 (%)		72.1			75.9	
	屑米重 (kg/a)		6.9			4.3	
	屑米歩合 (%)		10.9			6.7	
	精玄米千粒重 (g)		22.9			21.8	
	収量						
収量	わら重 (kg/a)		62.0			61.1	
	精粒重 (kg/a)		78.9			79.7	
	精玄米重 (kg/a)		56.9			60.4	
	収量平年比 (%)		100			100	
	玄米検査等級 (等)		2上			1	

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成31年・令和元年(2019年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。